



水稲刈取後の雑草対策について【秋季～冬季】

先月に次年産の土づくりのポイントについてご紹介しましたが、土づくりと併せて雑草対策は収量・品質を上げるポイントですので、水稲刈取後には雑草対策を実施するようにしましょう。

雑草対策のポイント

① 除草剤防除

『刈取後にラウンドアップ マックスロードを散布』

水稲刈取後に、水田にほふく茎を伸ばして畦畔から侵入するキシウスズメノヒエやアシカキがはびこった時や難防除雑草のクログアイ、ホタルイ、ミズガヤツリなどが20cm程度に再生した時は、ラウンドアップマックスロード50倍液を10a当り25ℓ散布することが、次年産の本田の雑草の密度を減らすのに効果的です。



キシウスズメノヒエ

★散布のポイント

散布時の注意点として、ラウンドアップマックスロードは茎葉処理除草剤であるため、雑草が稲わらにかくれていると効果が劣ります。

また、低温になり雑草の生育が停滞する頃になると浸透移行の効果が落ちるため、12月上旬までに散布しましょう。

散布後は、土に落ちた成分は土中の微生物が分解し、水や炭酸ガスとなりますので、散布した翌日以降に耕起や播種・定植しても作物には影響はありません。しかし、環境ごだわり農産物を生産する場合は、農薬カウントが1成分プラスとなりますのでご注意ください。



ラウンドアップマックスロード

② 耕種的防除

『耕起作業による 難防除雑草の抑制』

ウリカワやオモダカなどの多年生雑草は、発生原因となる塊茎が低温・乾燥に弱いいため、冬季の耕起により表層にある塊茎地表付近に出し、乾燥や低温条件にさらして死滅させることで発生密度を減らすことができます。しかし、耕起後、湛水状態や積雪下で湿潤状態になつては死滅させることが難しいため、水稲生育期間中に初中期一発の除草剤で地上部の生育を抑制し、中干し時に中後期除草剤（バサグラン粒剤・液剤）の体系処理で3年間連用して発生密度を減らしましょう。



ウリカワ



オモダカ